

1. 件名：日本原子力発電（株）敦賀2号機のボーリング柱状図データ
書換えの原因調査分析に係る第三回公開会合後の面談

2. 日時：令和3年10月27日（水）16時00分～17時20分

3. 場所：原子力規制庁 2階打合せスペース

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部検査グループ専門検査部門

小坂企画調査官

原子力規制部検査グループ実用炉監視部門

反町主任監視指導官

敦賀原子力規制事務所

塚本原子力運転検査官（TV会議システムを利用）

日本原子力発電（株）

発電管理室 室長代理 他5名

5. 要旨

○原子力規制庁と日本原子力発電（株）（以下「原電」という。）とで、
10月26日に開催した公開会合での議論の内容について、添付の資料
を参考にして確認した。

○原電から、設計開発のプロセスと審査資料の作成プロセスについて、公
開会合で示した規程体系図は、改正予定の内容に対して規程の名称等が
誤解を招くものとなっており、見直す予定である旨の説明を受けた。

○原子力規制庁から、以下の対応を求めた。

➤ 一次データの取扱いは社内規程の文書体系の中で適切に定義して適切
な運用が行えるようにすること。

➤ 複数の調査手法による評価結果は、それぞれを審査資料内で明確にし
て、それらの取扱いの判断を明確にするようなプロセスを社内規程に
明確にすること。またその際の調査データは、妥当性が確認されたも
のをを用いること。

➤ 関連する業務プロセスの関係を明確にして実効性のある業務プロセス
を構築すること。

- 10月26日の公開会合で原電が改善する方針を示した事項については改善すべき内容をしっかりと検討し、関係者の教育を行うこと。
- 改善された業務プロセスに従って作成された実施計画に基づき、審査資料の信頼性の確保のための2点のプロセスが機能した状態で審査資料を作成すること。

○原電から、承知した旨の回答があった。

○今後の検査の予定については、日本原子力発電（株）の準備が整う時期に、改めて日程調整を行うこととなった。

6. その他

資料：敦賀2号機のボーリング柱状図データ書換えの原因調査分析に係る公開会合（第3回）議事要旨（日本原子力発電株式会社）